

次号予告

とびら

Turning Point を求めて..... 虎の門分院 谷岡 淳

特集=失調症のリハビリテーション

失調症の病態生理..... 九大神経内科 志田堅四郎

失調症..... 九州リハ大 島田 智明

失調症の理学療法..... 北村山公立病院 駒沢 治男

失調症の作業療法..... 虎の門分院 池の谷真理

講座

筋神経の生理学(5)..... 九州リハ大 和才 嘉昭

研究と報告

ラセン型短下肢装具の試み..... 広島赤十字病院 田中 潤

股関節可動域測定法の検討..... 足立学園 二又 達子

脊髄損傷者退院後の実態調査..... 東北労災病院 山上 弘義

症例の検討と反省

末梢神経損傷にて拘縮を防ぎえなかった一例について

..... 慶大病院 藤池しげ子, 他

英語講座

PT による患者の評価(2)..... 都養育院 荻島 秀男

今日の精神科作業療法

引継ぎの記録から..... 松沢病院 小林 夏子

資料

車椅子 JIS 規格について..... 日医大整形外科 石田 肇

海外より

PT・OT 養成についての海外事情..... 府中リハ学院 五味 重春

編集後記

前号に引き続き今回も「末梢循環障害」という難題に取り組みました。

この疾患もまだ PT・OT のアプローチとしては十分な症例数があるわけではなく、各論的論述を掲載する時期には到っていないように思われます。

しかし、本誌は PT・OT の専門誌として自身による文献の考察からではあっても、ともあれみずからの掌中にそれを納めることが、充実した治療内容を保証するものであるとの視点から敢えて特集にこれらのテーマを設定しております。

最近読者の皆様から本誌の編集について何通が御意見をいただきました。中には手厳しい御批判

を述べられておられるものもありましたが、様々な矛盾の存在するこの領域で患者の期待を一身に受けて業務に携わるセラピストの卒直な感想であると思います。

こうした御要望に応えるために本誌は今後更に幅広い編集方針を確立し、最新の治療と再教育を基調に、PT・OT をとりまくすべての問題を専門誌の立場から取り組んでいくつもりであります。

文字づらの一方的コミュニケーションを止揚し立体的内容をつくり上げてまいりたいと思います。

(M)

編集顧問

天 児 民 和
九州労災病院長

五 味 重 春
府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
(五十音順, 以下同じ)

編集委員

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部

佐 藤 馨
神奈川県更生指導所

寺 山 久美子
都心障センター

野 本 卓
東医歯大理療室

小 林 夏 子
都立松沢病院

福 屋 靖 子
東大リハビリ部

松 村 秩
国立リハビリ学院

編集同人

明 石 謙

赤 津 隆

内 村 静 子

梅 田 晃 昌

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大喜多 潤

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

谷 岡 淳

富 岡 詔 子

奈 良 勲

福 田 修

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

三 島 博 信

横 山 厳

和 才 嘉 昭

(担当 細田・岩元・三輪)